

キヤノン株式会社

2026年第3四半期 決算説明会

2026年10月27日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

目次

Canon

■ 2026年3Q/3Q累計実績	P 2～5
------------------	-------

■ 2026年見通し	P 6～11
------------	--------

■ 財務状況	P 12～14
--------	---------

■ まとめ	P 15
-------	------

■ 参考資料	P 16～21
--------	---------

- 市況は、米国は堅調であったが、中東情勢の影響を受ける欧州と個人消費が低迷する中国で弱含んだ
- 主力事業のプリンティング機器の業績が着実に改善するとともにネットワークカメラが力強く成長
→3Qは4.9%の増収で過去最高の売上を達成
- メモリーや中東情勢に起因する原材料のコストアップを、構造改革効果や円安で吸収
- 営業利益は対前年10.3%増の971億円、純利益は対前年18.2%増の752億円

当社の関連市場は、米国は堅調でしたが中東情勢の影響を受ける欧州地域が引き続き弱く、個人消費が低迷する中国も需要が弱含みました。

当社の業績については、第2四半期に回復の兆しがみられていたプリンティング機器の業績が着実に改善したほか、用途を広げながら成長を続けるネットワークカメラの伸びが牽引し、売上は4.9%の増収となり、第3四半期として過去最高となりました。

メモリーや原油高の影響を受けた原材料の価格上昇を構造改革効果や円安影響により吸収し、営業利益は対前年10.3%増の971億円、純利益は対前年18.2%増の752億円となり、厳しい事業環境においても増収増益を達成しました。

2026年3Q/3Q累計 全社PL

(億円)	3Q			3Q累計		
	2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 実績	2025年 実績	対前年
売上高	11,588	11,043	+4.9%	34,334	33,029	+4.0%
売上総利益 (売上総利益率)	5,439 46.9%	5,120 46.4%	+6.2%	16,669 48.5%	15,477 46.9%	+7.7%
経費 (経費率)	4,468 38.5%	4,240 38.4%		13,392 39.0%	12,453 37.7%	
営業利益 (営業利益率)	971 8.4%	880 8.0%	+10.3%	3,277 9.5%	3,024 9.2%	+8.4%
税引前利益	1,064	918	+15.8%	3,584	3,141	+14.1%
純利益 (純利益率)	752 6.5%	637 5.8%	+18.2%	2,464 7.2%	2,196 6.6%	+12.2%
USD	159.13	147.50	+11.63	158.57	148.06	+10.51
EUR	183.14	172.33	+10.81	184.07	165.56	+18.51

3

第3四半期の売上は、対前年で4.9%の増収の1兆1,588億円となり、過去最高を更新しました。

売上総利益については、メモリーや原材料コストの上昇による悪化を為替の円安効果で吸収し、0.5ポイント改善しました。

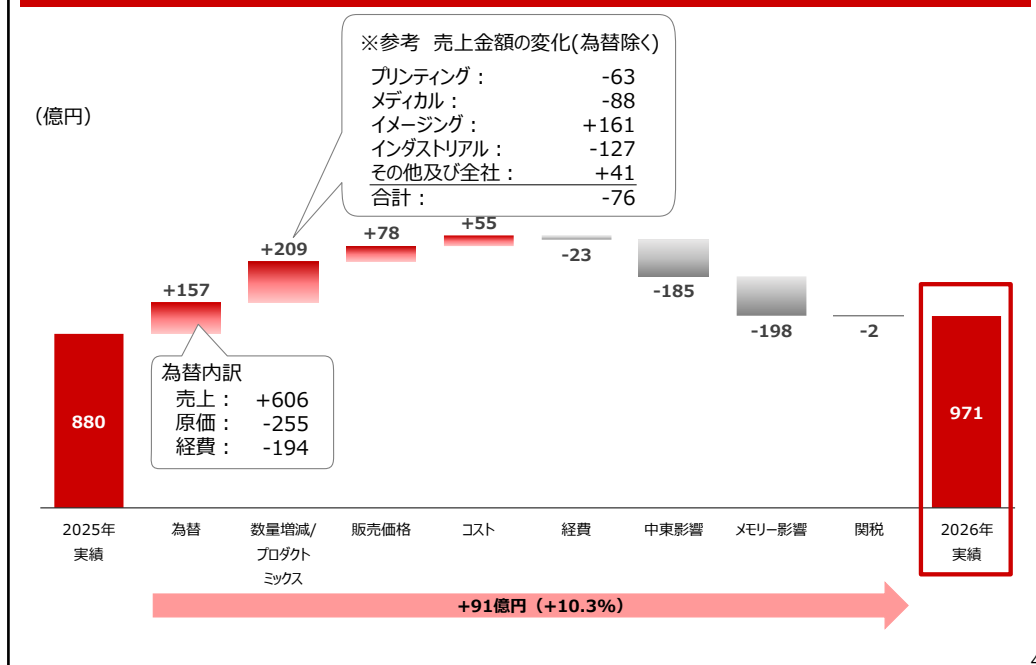
経費については、為替の円安による外貨経費の増加や人件費のベースアップによる増加があったものの、構造改革の効果により0.1ポイント悪化にとどめました。

以上の結果、営業利益は対前年10.3%増の971億円、税引前利益は15.8%増の1,064億円、純利益は18.2%増の752億円となりました。

第3四半期累計では、売上高は4.0%増収の3兆4,334億円となり、過去最高となっています。営業利益は、8.4%増の3,277億円、純利益は12.2%増の2,464億円と増収増益を続けています。

2026年 営業利益分析(3Q)対前年

Canon



為替レートはドル、ユーロ共に10円以上円安に推移したことで、157億円のプラスとなりました。

一方、中東影響による販売減や原材料価格の上昇により185億円、メモリー価格上昇により198億円と大きなマイナス影響がありましたが、数量増減・プロダクトミックスにおいて、メディカルやインダストリアルが悪化を利益率の高いイメージングの売上増加や、高粗利機種の販売増加や構造改革効果があったプリンティングがカバーし、209億円のプラスとなりました。これに販売価格78億円、コストダウン55億円のプラス影響を加え、悪化要素の大半をカバーしました。

経費については、人件費のベースアップや開発費の増加はあるものの、構造改革効果により前年から23億円増にとどめています。

それらを合わせた結果、営業利益は前年から10.3%増の971億円となりました。

2026年 ビジネスユニット別PL(3Q)

(億円)		3Q			3Q累計		
		2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 実績	2025年 実績	対前年
プリンティング	売上高	6,275	6,040	+3.9%	18,674	18,256	+2.3%
	営業利益	506	522	-3.0%	2,082	2,022	+3.0%
	(%)	(8.1%)	(8.6%)		(11.1%)	(11.1%)	
メディカル	売上高	1,299	1,329	-2.2%	4,074	4,122	-1.2%
	営業利益	24	64	-61.5%	108	182	-40.6%
	(%)	(1.9%)	(4.8%)		(2.6%)	(4.4%)	
イメージング	売上高	2,949	2,536	+16.3%	8,476	7,264	+16.7%
	営業利益	468	381	+22.7%	1,444	1,084	+33.2%
	(%)	(15.9%)	(15.0%)		(17.0%)	(14.9%)	
インダストリアル	売上高	737	854	-13.7%	2,189	2,452	-10.7%
	営業利益	127	139	-9.2%	301	400	-24.8%
	(%)	(17.2%)	(16.3%)		(13.8%)	(16.3%)	
その他及び全社	売上高	627	554	+13.2%	1,755	1,720	+2.0%
	営業利益	-157	-229	-	-657	-671	-
	(%)	(25.0%)	(41.3%)		(37.5%)	(39.0%)	
消去	売上高	-299	-270	-	-834	-785	-
	営業利益	3	3	-	-1	7	-
	(%)	(0.0%)	(0.0%)		(0.0%)	(0.9%)	
連結合計	売上高	11,588	11,043	+4.9%	34,334	33,029	+4.0%
	営業利益	971	880	+10.3%	3,277	3,024	+8.4%
	(%)	(8.4%)	(8.0%)		(9.5%)	(9.2%)	

5

プリンティングは、第2四半期に見られた商談活性化が、第3四半期に入り実際に販売へつながったことに加え、投入した新製品も売上に貢献し始め、プリンティングユニット全体では3.9%の増収となりました。

メディカルは、第2四半期に続き生産システム更新に伴う運用上の混乱および調達先の火災による部材不足により十分な量の生産ができず、減収となりました。

イメージングのレンズ交換式カメラは、中東紛争や中国市況悪化の影響を受けて販売台数を落としたものの、フルサイズモデル新製品の販売が拡大し、需要が旺盛なコンパクトカメラについても上期に続いて5割以上の増収となりました。ネットワークカメラも、サイバーセキュリティやAI分析に強みを持つ製品ラインアップを生かし、データセンターや小売向けなど各分野で売上を大きく伸ばした結果、グループ全体で前年から16.3%の増収となりました。

インダストリアルは、AI関連需要の拡大に伴い、メモリー向けを中心にKrF装置の販売が前年を上回り、増収となりましたが、FPD露光装置についてはパネルメーカーが投資判断を先送りした影響を受け、販売台数が減少し、ユニット全体では減収となりました。

■ 部材調達・コストアップ状況

- メモリーの4Q調達単価は想定していた水準で決定
- 原油関連の原材料は、現時点でさらなる上昇は見られず
- 基板および基板に使用する電子部品がAI関連需要を背景に逼迫

■ メディカル事業生産遅延

	前回見通し	今回見通し
売上影響額	約450億円	約900億円
生産正常化	2026年9月	2027年以降
遅延要因	システム更新に伴う運用混乱 調達先の火災 基板と電子部品の逼迫	

6

今年、当社に限らずさまざまな産業に広く影響を与えているのが部材の逼迫とコストアップです。当社においては、メモリーは今年の必要量はすでに確保済みであり、第4四半期の購入価格も概ね当社が想定していた水準にとどまりました。また、原油価格は不安定な中東情勢を反映し18年ぶりに最高値を更新していますが、現時点では原油関連の原材料価格のさらなる上昇は見られていません。一方、8月以降、AI関連の需要拡大を背景にプリント基板および基板に使用する電子部品の逼迫が深刻で、当社の生産に多大な影響を与えるとともに、販売機会の喪失につながっています。

この影響が一番大きく出ているのがメディカル事業です。

メディカル事業は、前回の決算で、9月には生産を正常化し、第4四半期には可能な限りの増産を行うことで業績への影響を最小限にとどめるよう計画していました。しかしながら、先に述べたプリント基板および基板に使用する電子部品の逼迫により、予定した数量を調達できなくなったことから、第4四半期の売上をさらに引き下げて年間での影響を約900億円まで下方修正しました。

現在、代替調達を含めあらゆる手段を講じて基板の確保に取り組んでおり、来年以降段階的に生産の正常化を図っていきます。それまでは各医療機関の装置の導入計画を考慮した納期の調整や代替機の貸し出しなどを行い、お客様のニーズに真摯に対応し、顧客基盤の維持に努めていきます。

■ その他

- カメラやインダストリアルの下方修正原因は来年には解消
- プリンティングは3Qの業績改善を踏まえ、上方修正
- メディカルの悪化により前回計画を下方修正するも、引き続き増収増益を目指す

7

その他の事業については、カメラは中東紛争の継続や中国市況の悪化および部材不足、インダストリアルは顧客都合による納入時期の後ろ倒しのため下方修正していますが、来年には解消する見通しです。

一方、第3四半期に業績が改善してきたプリンティングについては第4四半期に向けて順調に受注を獲得しており、売上の計画を引き上げています。

メディカル事業の悪化により、前回計画より全社の売上・利益を下方修正いたしますが、引き続き増収増益を目指していきます。

2026年年間 全社PL

Canon

(億円)	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
売上高	47,660	46,247	+3.1%	48,000	-340
売上総利益 (売上総利益率)	22,530 47.3%	21,620 46.7%	+4.2%	22,680 47.3%	-150
経費 (経費率)	17,970 37.7%	17,066 36.9%		18,030 37.6%	+60
営業利益 (営業利益率)	4,560 9.6%	4,554 9.8%	+0.1%	4,650 9.7%	-90
税引前利益	4,830	4,821	+0.2%	4,920	-90
純利益 (純利益率)	3,330 7.0%	3,321 7.2%	+0.3%	3,400 7.1%	-70
USD	157.58	149.71		156.56	
EUR	182.90	169.41		182.08	
2026年4Qの為替影響額 (1円の変動による影響)					
売上 営業利益					
USD 35億円 7億円					
EUR 18億円 8億円					

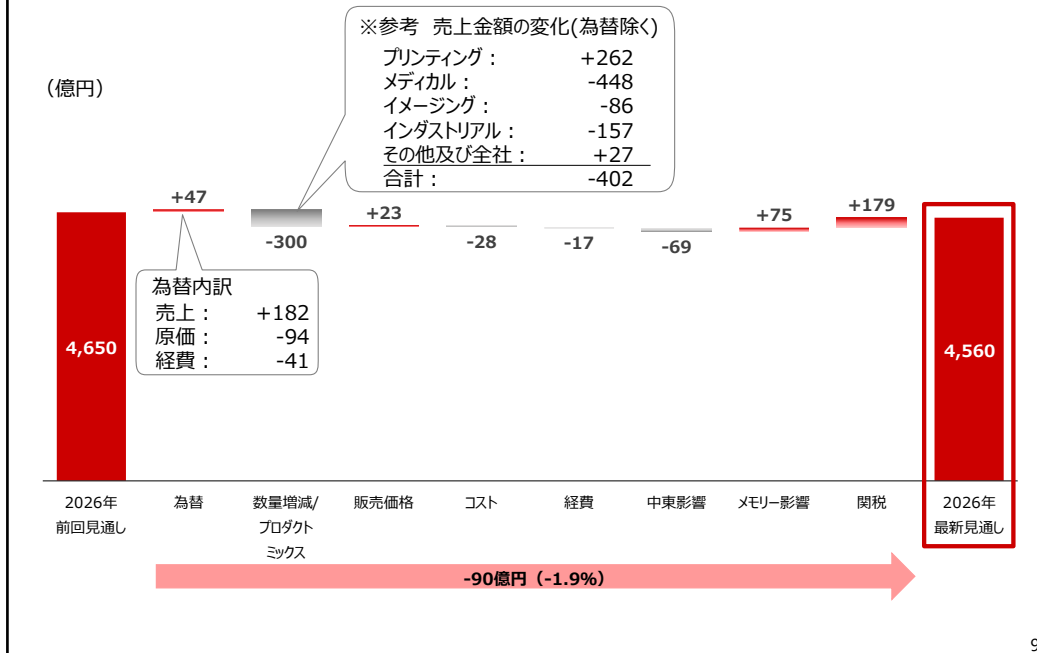
8

売上高は、前回見通しから340億円引き下げ、対前年で3.1%増の4兆7,660億円、営業利益については前回見通しから90億円引き下げ、対前年0.1%増の4,560億円、純利益は前回見通しから70億円引き下げ、対前年0.3%増の3,330億円となる見込みです。

この数値の達成を最低限の目標として、残りの期間で、できるだけ売上・利益の上積みを図っていきます。

2026年 営業利益分析(年間)対前回

Canon



為替影響は、第4四半期の前提となる為替レートは前回計画と同様にUSドルが155円、ユーロが180円としますが、第3四半期が円安に振れたことで、年間で47億円のプラスとなります。

数量増減・プロダクトミックスについてはメディカルの売上計画を引き下げた影響が大きく、300億円のマイナス影響となっています。

好転要素としては、15%を前提としていた米国追加関税が12.5%となりコストが減少することに加え、関税還付を原資とした戦略投資についてもメモリーや原油高を起因とするコストアップの状況を踏まえて見直しをしたことで、179億円のプラス影響となり、コスト悪化の一部をカバーしています。

以上の結果、営業利益は前回と比べて90億円減少し、4,560億円となりました。

事業構造改革

(億円)

		2025年 年間	2026年				
			1Q	2Q	3Q	4Q	年間見通し
販売 構造改革	費用	-79	-7	-20	-48	-75	-149
	効果	220	8	21	25	25	79
	PL影響	141	1	1	-23	-50	-70
生産 構造改革	費用	-147	-8	-136	-46	-28	-218
	効果	0	3	7	65	73	148
	PL影響	-147	-5	-129	19	45	-70
メディカル 事業革新	費用	-36	-3	-1	-2	-1	-7
	効果	115	10	30	43	17	100
	PL影響	79	7	29	41	16	93
合計	費用	-262	-18	-157	-96	-104	-374
	効果	335	21	58	133	116	327
	PL影響	73	3	-99	37	12	-47

10

販売については、欧州地域における組織体制の再編や直接販売・間接販売比率の見直しを各国ごとに進めており、第3四半期まで順調に進捗しています。今年度は149億円の費用を費やし、79億円の効果を見込んでいますが、来年度には効果が費用を大きく上回る予定です。

生産構造改革については、昨年下半年から本格化した拠点の集約が順調に進捗したことで第3四半期までで大半の費用が発生しています。年間では218億円の費用を費やしますが、間接部門の費用削減によって、すでに第3四半期から効果が費用を大きく上回っており、年間で148億円の効果を想定しています。

メディカルについては、海外のコールセンター集約などサービスのオペレーション効率化に加え、外部支出費用の削減など改革を着実に進めてきたことで、年間で100億円の利益貢献を見込んでいます。

このように収益性改善のための構造改革については順調に進んでいます。

2026年 ビジネスユニット別PL(年間)

Canon

(億円)		2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	25,794	24,944	+3.4%	25,442	+352
	営業利益	2,628	2,558	+2.8%	2,560	+68
	(%)	(10.2%)	(10.3%)		(10.1%)	
メディカル	売上高	5,227	5,806	-10.0%	5,682	-455
	営業利益	36	328	-89.0%	228	-192
	(%)	(0.7%)	(5.6%)		(4.0%)	
イメージング	売上高	11,907	10,549	+12.9%	12,015	-108
	営業利益	1,916	1,729	+10.8%	1,915	+1
	(%)	(16.1%)	(16.4%)		(15.9%)	
インダストリアル	売上高	3,386	3,611	-6.2%	3,537	-151
	営業利益	586	625	-6.3%	603	-17
	(%)	(17.3%)	(17.3%)		(17.0%)	
その他及び全社	売上高	2,475	2,371	+4.4%	2,413	+62
	営業利益	-606	-695	-	-659	+53
消去	売上高	-1,129	-1,034	-	-1,089	-40
	営業利益	0	9	-	3	-3
連結合計	売上高	47,660	46,247	+3.1%	48,000	-340
	営業利益	4,560	4,554	+0.1%	4,650	-90
	(%)	(9.6%)	(9.8%)		(9.7%)	

11

プリンティングは、回復が進んできた市況のもとで、商戦期である第4四半期に新製品の拡販を本格化させていきます。オフィス複合機はラインアップをそろえた新シリーズ「imageFORCE」の拡販により平均売価を引き上げるとともに、プロダクションはB3サイズの新製品「varioPRINT iX1700」に、B2サイズ用の紙に対応可能な「varioPRESS iV7」を加えてラインアップを拡大させます。これらの施策により、ユニット全体で前年から売上を3.4%増加させる計画です。

メディカルは、生産システムの更新による運用上の混乱は概ね解消しましたが、AI関連の需要拡大によりプリント基板や電子部品が予定していた数量を確保できず、生産の正常化が来年第2四半期以降に持ち越すことから、今年の業績見通しを再度下方修正しています。

イメージングのカメラは、レンズ交換式カメラは中東紛争の継続と中国市況の悪化、コンパクトカメラは部材不足により今年の見通しを引き下げますが、販売が好調なフルサイズの新製品「EOS R6 Mark III」「EOS R6 V」に加え、10月に発売する小型・軽量のフルサイズ入門機「EOS R8 Mark II」の販売を拡大することで、第4四半期の成長率を高め、年間では8%の売上成長を目指します。

ネットワークカメラは、足元の市場拡大は力強く、見通しを再度引き上げて年間で20%成長とし、ビジネスユニット全体で前年から12.9%の増収を目指します。

インダストリアルは、顧客の付帯工事の遅れなどにより一部納入時期の後ろ倒しがあり減収となりますが、第4四半期は旺盛なメモリー向け需要により半導体露光装置の販売台数は大幅に増加する見通しです。また、次世代の半導体製造装置として導入を進めるナノインプリントについては、追加で出荷した装置も使い、2027年からの量産適用に向け、量産ラインを想定したプロセス検証および生産性向上の検討が着実に進展しています。

在庫の状況

- 商戦期にむけて積み増した在庫を第4四半期は拡販に振り向ける
- 年末は来期に向けて戦略的に通常よりも高い在庫水準となる見通し

(金額：億円)		2025年				2026年			増減	
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	対25年9月末	対25年12月末
プリンティング	金額	3,344	3,461	3,681	3,421	3,558	3,753	3,870	+189	+449
	日数	47	52	55	49	51	55	56	+1	+7
メディカル	金額	1,398	1,385	1,485	1,424	1,491	1,568	1,663	+178	+239
	日数	85	90	99	86	88	103	114	+15	+28
イメージング	金額	1,763	1,664	1,721	1,703	2,140	2,237	2,451	+730	+748
	日数	66	64	61	53	68	74	74	+13	+21
インダストリアル	金額	1,507	1,603	1,547	1,300	1,335	1,401	1,580	+33	+280
	日数	146	183	159	118	133	176	190	+31	+72
その他及び全社	金額	716	682	704	556	613	656	686	-18	+130
合計	金額	8,728	8,795	9,138	8,404	9,137	9,615	10,250	+1,112	+1,846
	日数	68	73	74	63	69	77	80	+6	+17

12

2026年9月末の在庫金額は、商戦期である第4四半期の販売拡大に向けてプリンティングやイメージングを中心に商品在庫を積み増す時期にあることに加え、半導体露光装置の多くが設置途上にあることから、6月末からさらに増加し、1兆250億円まで増加しました。

12月末在庫は商戦期を経て減少しますが、半導体露光装置は旺盛な需要に応えるべく引き続き高い水準の在庫を維持する計画で、逼迫している原材料や部品についても早期に確保する動きをかけているため、通常より高い70日程度の在庫水準とする見通しです。

キャッシュフロー(年間)

Canon

- 戦略的な在庫積み増しはあるものの、営業CFは前年水準を維持
- 成長領域への投資と、積極的かつ安定的な株主還元を進める

(億円)	2026年 最新見通し	2026年 前回見通し	2025年 実績	2024年 実績
純利益	3,330	3,400	3,321	3,251
償却費	2,300	2,300	2,392	2,355
その他	-1,020	-250	-954	462
営業活動によるキャッシュフロー	4,610	5,450	4,759	6,068
投資活動によるキャッシュフロー	-2,520	-2,550	-2,374	-2,973
フリーキャッシュフロー	2,090	2,900	2,385	3,095
財務活動によるキャッシュフロー	-3,850	-4,450	-1,792	-2,260
為替変動影響	-40	-60	251	167
現預金の純増減額	-1,800	-1,610	844	1,002
現預金の期末残高	4,060	4,250	5,860	5,016
手元回転月数	1.0	1.0	1.4	1.3

※ 2024年の純利益は、減損損失影響を除いて表示しております。

13

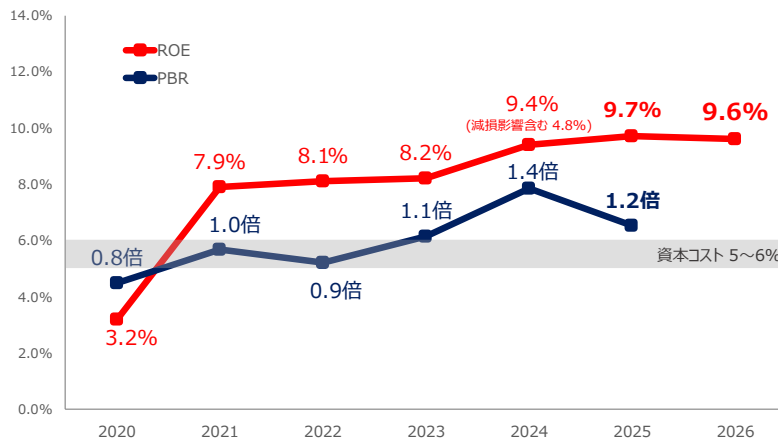
営業キャッシュフローは、戦略的な部品在庫の積み増しはあるものの、前年と同水準の4,610億円を見込んでいます。

投資キャッシュフローでは、宇都宮新工場における半導体露光装置の生産設備増強や、メディカル・ネットワークカメラ分野への将来投資を着実に実行し、設備投資額は例年並みの水準を見込んでいます。

株主還元については、年間160円の配当を実施予定であり、1月に設定した2,000億円の自己株式取得についても9月に完了しています。今後も、成長投資とのバランスを図りながら、積極的かつ安定的な株主還元を継続していきます。

資本収益性

- 2026年のROEは9.6%の見通し
- フェーズⅦの目標達成に向けて、資本収益性向上の取り組みを進める

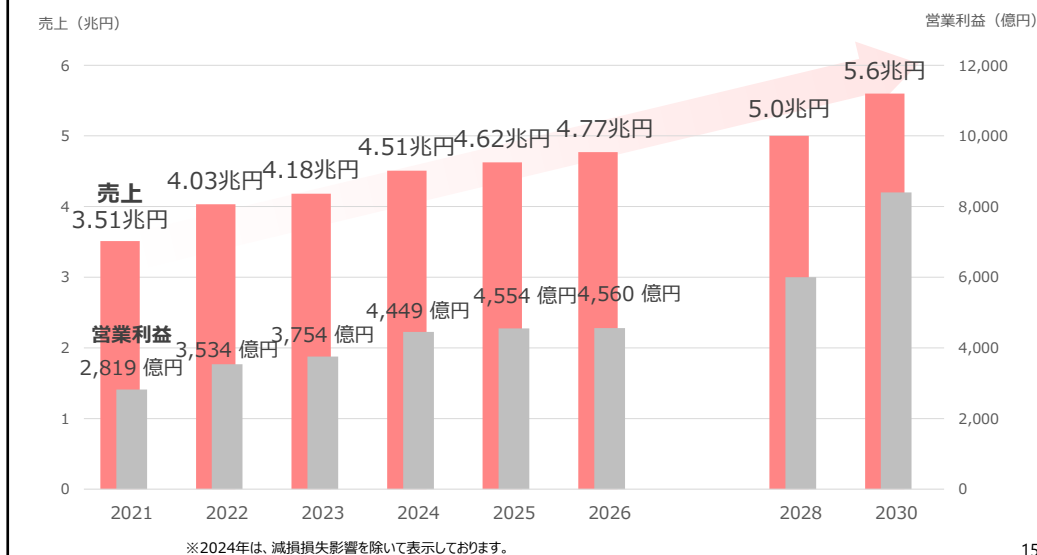


14

年間で増収増益を見込んでいますが、純利益の成長は限定的であることから、今年のROEは前年並みの9.6%となる見通しです。

今年はメディカル事業の生産遅延や中東情勢等の影響もあり、ROEの本格的な改善は来年以降となる見込みです。フェーズⅦで掲げるROE目標である2028年12%、2030年15%の実現に向け、事業構造改革の効果を着実に収益につなげるとともに、資本効率の改善を進めていきます。

- 5カ年計画初年度である2026年は増収増益を達成し、経営の質を一段と高めながら、さらなる成長につなげていく



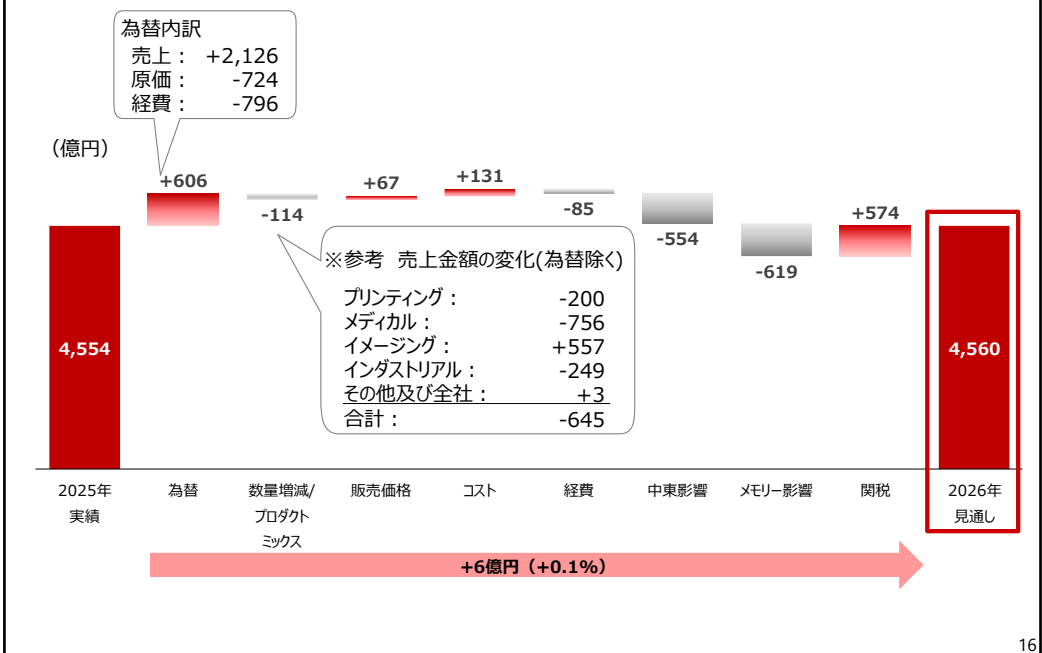
中東情勢や世界経済の見通しは引き続き不透明であり、メモリーや原材料のコストアップなど厳しい状況が続きますが、当社の持つ強いコスト管理能力と強固な経営基盤を生かして、コスト削減のためのあらゆる施策を講じるとともに、第4四半期の販売を最大化し、年間で増収増益を目指していきます。

構造改革など中長期の取り組みも予定通り進捗しており、来年以降、効果が増大してきています。今後も、「生産性革新を断行し、新たなる成長を実現する」をスローガンに、5カ年計画「グローバル優良企業グループ構想 PhaseⅦ」で掲げた目標達成に向け、経営の質を一段と高めながら、さらなる成長を目指していきます。

參考資料

2026年 営業利益分析(年間)対前年

Canon



■売上/対前年伸び率

(億円)

		3Q			年間				
		2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,113	1,075	+3.5%	4,691	4,373	+7.3%	4,690	+1
オフィス	オフィス複合機	1,556	1,492	+4.2%	6,588	6,316	+4.3%	6,533	+55
	オフィスその他	1,097	1,050	+4.5%	4,545	4,321	+5.2%	4,542	+3
		2,653	2,542	+4.4%	11,133	10,637	+4.7%	11,075	+58
プロシューマー	LP	1,646	1,594	+3.2%	6,470	6,481	-0.2%	6,194	+276
	インクジェット	863	829	+4.1%	3,500	3,453	+1.4%	3,483	+17
		2,509	2,423	+3.5%	9,970	9,934	+0.4%	9,677	+293
売上高計		6,275	6,040	+3.9%	25,794	24,944	+3.4%	25,442	+352
営業利益		506	522	-3.0%	2,628	2,558	+2.8%	2,560	+68
%		8.1%	8.6%		10.2%	10.3%		10.1%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
プロダクション	-3.0%	+1.2%	+1.6%
オフィス	-0.4%	+0.3%	+0.0%
プロシューマー	-1.3%	-3.7%	-6.2%
合計	-1.3%	-1.1%	-2.2%

■対前年台数伸び率

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
オフィス複合機	-5%	-5%	-4%
LP	-5%	-2%	-3%
インクジェット	+11%	-1%	-7%

17

<プロダクション>

生産性向上を求める印刷会社が、第2四半期からデジタル商業印刷機への投資をいち早く再開しています。

第3四半期は、高い生産性と安定性が評価されているimagePRESS Vシリーズの販売が米州を中心に好調であったことに加え、価格と性能のバランスを図り競合機からの置き換えを促す高速カットシート機の新製品「varioPRINT iX1700」が貢献し増収となりました。

第4四半期にはさらに、B2サイズ用の紙に対応し大量印刷が可能なことからアナログ機からの置き換えを促進する「varioPRESS iV7」を発売するとともに、ロール紙とアクリル板などの硬い素材の両方に対応したハイブリッド大判印刷機「Colorado XL」の売上を本格化させて本体の売上を大きく伸ばす計画です。

■売上/対前年伸び率

(億円)

		3Q			年間				
		2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,113	1,075	+3.5%	4,691	4,373	+7.3%	4,690	+1
オフィス	オフィス複合機	1,556	1,492	+4.2%	6,588	6,316	+4.3%	6,533	+55
	オフィスその他	1,097	1,050	+4.5%	4,545	4,321	+5.2%	4,542	+3
		2,653	2,542	+4.4%	11,133	10,637	+4.7%	11,075	+58
プロシューマー	LP	1,646	1,594	+3.2%	6,470	6,481	-0.2%	6,194	+276
	インクジェット	863	829	+4.1%	3,500	3,453	+1.4%	3,483	+17
		2,509	2,423	+3.5%	9,970	9,934	+0.4%	9,677	+293
売上高計		6,275	6,040	+3.9%	25,794	24,944	+3.4%	25,442	+352
営業利益		506	522	-3.0%	2,628	2,558	+2.8%	2,560	+68
%		8.1%	8.6%		10.2%	10.3%		10.1%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
プロダクション	-3.0%	+1.2%	+1.6%
オフィス	-0.4%	+0.3%	+0.0%
プロシューマー	-1.3%	-3.7%	-6.2%
合計	-1.3%	-1.1%	-2.2%

■対前年台数伸び率

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
オフィス複合機	-5%	-5%	-4%
LP	-5%	-2%	-3%
インクジェット	+11%	-1%	-7%

17

<オフィス複合機>

オフィス複合機は、経済の先行き不透明感を背景に昨年下半年から顧客が投資を先送りしていましたが、第2四半期から商談が活性化し、市況回復の兆しが見られていました。

第3四半期に入り、それらの商談が実際の販売へとつながってきており、米州とアジア地域を中心に増収となりました。画質や省電力性能、メンテナンス性など基本性能が高く評価されている新シリーズ「imageFORCE」は、6月に低速機を投入しラインアップを完成させ、顧客のさまざまなニーズに対応する提案力が高まりました。商戦期である第4四半期のさらなる拡販に向け受注は積みあがってきており、新シリーズの構成比率を高めることで平均単価も上昇する見通しであり、年間でも4.3%の増収を目指します。

<オフィスその他>

ITソリューションビジネスでは、DXの進展に伴う金融・文教分野の案件増加に加え、AIを使用したサイバー攻撃の高度化・高速化を背景としたセキュリティ需要の拡大を捉えたことで、第3四半期も国内を中心に増収となりました。

■売上/対前年伸び率

(億円)

		3Q			年間				
		2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,113	1,075	+3.5%	4,691	4,373	+7.3%	4,690	+1
オフィス	オフィス複合機	1,556	1,492	+4.2%	6,588	6,316	+4.3%	6,533	+55
	オフィスその他	1,097	1,050	+4.5%	4,545	4,321	+5.2%	4,542	+3
		2,653	2,542	+4.4%	11,133	10,637	+4.7%	11,075	+58
プロシューマー	LP	1,646	1,594	+3.2%	6,470	6,481	-0.2%	6,194	+276
	インクジェット	863	829	+4.1%	3,500	3,453	+1.4%	3,483	+17
		2,509	2,423	+3.5%	9,970	9,934	+0.4%	9,677	+293
売上高計		6,275	6,040	+3.9%	25,794	24,944	+3.4%	25,442	+352
営業利益		506	522	-3.0%	2,628	2,558	+2.8%	2,560	+68
%		8.1%	8.6%		10.2%	10.3%		10.1%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
プロダクション	-3.0%	+1.2%	+1.6%
オフィス	-0.4%	+0.3%	+0.0%
プロシューマー	-1.3%	-3.7%	-6.2%
合計	-1.3%	-1.1%	-2.2%

■対前年台数伸び率

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
オフィス複合機	-5%	-5%	-4%
LP	-5%	-2%	-3%
インクジェット	+11%	-1%	-7%

17

<プロシューマー>

プロシューマーについては、厳しい市場環境を反映し、上期は前年からの売上減少が継続していましたが、第3四半期に入り、市況は回復傾向にあり、前年を超える売上となりました。

レーザープリンターについても、市況は徐々に回復してきており、第3四半期の売上は本体、消耗品ともにプラスに転じています。

第4四半期は、上期に投入した高速印刷と優れたドキュメント処理機能を備える中高速機の新製品を、高いプリントボリュームが期待できる国や地域で拡販することで、本体の売上伸び率を高め、来年以降の消耗品の売上につなげていきます。

インクジェットプリンターについても、カートリッジモデルの比率の高い欧米の市況低迷により、本体のマイナス成長が継続していましたが、第3四半期は、昨年発売したカートリッジモデル新製品が優れたユーザビリティで好評を得て、米国で販売台数No.1になるなど販売を伸ばし、増収となりました。

第4四半期も、カートリッジモデル新製品の拡販をさらに進め、来期の消耗品売上につなげるとともに、大容量インクモデルについても市場拡大が続くアジアを中心に販売を伸ばし、増収を目指します。

プリンティング ハード/ノンハード売上

■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2026年		2025年	
			3Q 実績	年間 最新見通し	3Q 実績	年間 実績
プロダクション	円貨	ハード	-4%	+8%	+3%	-4%
		ノンハード	+8%	+7%	+1%	+1%
	LC	ハード	-10%	+3%	+1%	-5%
		ノンハード	+1%	0%	0%	0%
オフィス複合機	円貨	ハード	+1%	+5%	-7%	-5%
		ノンハード	+7%	+3%	+2%	0%
	LC	ハード	-5%	0%	-8%	-5%
		ノンハード	+1%	-2%	+1%	0%
LP	円貨	ハード	+3%	0%	-22%	-12%
		ノンハード	+3%	0%	+4%	0%
	LC	ハード	-1%	-4%	-23%	-12%
		ノンハード	-1%	-3%	+2%	+1%
インクジェット	円貨	ハード	+19%	+5%	-4%	+2%
		ノンハード	-7%	-2%	+3%	-2%
	LC	ハード	+11%	0%	-5%	+1%
		ノンハード	-13%	-7%	+2%	-3%

■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
売上高計	1,299	1,329	-2.2%	5,227	5,806	-10.0%	5,682	-455
営業利益 %	24 1.9%	64 4.8%	-61.5%	36 0.7%	328 5.6%	-89.0%	228 4.0%	-192

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
合計	-7.5%	-14.2%	-6.2%

19

<メディカル>

第3四半期は引き続き、4月に実施した生産システム更新に伴う運用上の混乱および調達先の火災による部材不足により、通常のリードタイムで製品を供給することができず、売上が前年から減少しました。

9月には生産を正常化し通常の生産量まで回復させ、第4四半期には可能な限りの増産を行うことで今年の業績への影響を最小限にとどめるよう取り組んでいましたが、AI関連の需要拡大を背景にプリント基板および基板に使用する電子部品が逼迫しており、予定した数量を調達できない見込みとなりました。そのため第4四半期における生産数量および販売数量を引き下げることとなり、年間の売上影響額を前回計画から約450億円増やして約900億円とし、再度業績見通しを下方修正しました。

今後、代替調達を含めあらゆる手段を講じて基板の確保に取り組んでいきますが、生産の正常化は来年第2四半期以降になる見通しです。その間は各医療機関の装置の導入計画を考慮した納期の調整や代替機の貸し出しなどお客様に真摯に対応し、顧客基盤の維持に努めていきます。

一方で、事業革新活動による収益性の改善、米国を中心とする販売力強化など将来を見据えた取り組みは計画通りに進めています。また、次世代CTであるフotonカウンティングCTは、国内での受注獲得、海外では臨床研究に向けた導入など、革新的な新製品の展開が着実に進展しています。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
カメラ	1,588	1,527	+4.0%	6,759	6,255	+8.1%	6,980	-221
ネットワークカメラ他	1,361	1,009	+34.9%	5,148	4,294	+19.9%	5,035	+113
売上高計	2,949	2,536	+16.3%	11,907	10,549	+12.9%	12,015	-108
営業利益	468	381	+22.7%	1,916	1,729	+10.8%	1,915	+1
%	15.9%	15.0%		16.1%	16.4%		15.9%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

■カメラ台数/対前年伸び率

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
カメラ	-3.6%	+1.5%	+5.4%
ネットワークカメラ他	+25.7%	+13.1%	+11.3%
合計	+8.1%	+6.2%	+7.8%

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
台数(万台)	62	275	280
伸び率	-16%	-5%	-3%

20

<カメラ>

若年層を中心とした新規のカメラユーザーの増加が続いており、コンパクトカメラの市場規模は拡大し、レンズ交換式カメラについても、紛争が続く中東地域と、個人消費が停滞する中国以外では需要は堅調であり、今年は630万台の市場規模を想定しています。

第3四半期は、需要が旺盛なコンパクトカメラが上期に続いて5割以上の増収となりました。レンズ交換式カメラについては、販売台数は昨年を下回ったものの、昨年11月に発売したフルサイズの新製品「EOS R6 Mark III」や今年6月に発売した動画クリエイター向けの新製品「EOS R6 V」により平均売価が上昇傾向にあり、カメラ合計で対前年4.0%の増収となりました。

年間見通しについては、中東地域と中国における販売を5万台引き下げてレンズ交換式カメラの台数を275万台とするとともに、コンパクトカメラは部材不足により今年の増産数量が計画を下回る見込みとなったため下方修正しました。

しかしながら販売は総じて堅調であり、10月には、小型・軽量で持ち運びやすいフルサイズモデルの入門機「EOS R8 Mark II」を発売し、より本格的な撮影体験を求めるユーザーのステップアップにつなげるモデルとして販売を拡大していくことでフルサイズモデルの比率を高めながら、カメラ全体で年間8.1%の増収を目指します。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
カメラ	1,588	1,527	+4.0%	6,759	6,255	+8.1%	6,980	-221
ネットワークカメラ他	1,361	1,009	+34.9%	5,148	4,294	+19.9%	5,035	+113
売上高計	2,949	2,536	+16.3%	11,907	10,549	+12.9%	12,015	-108
営業利益	468	381	+22.7%	1,916	1,729	+10.8%	1,915	+1
%	15.9%	15.0%		16.1%	16.4%		15.9%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

■カメラ台数/対前年伸び率

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
カメラ	-3.6%	+1.5%	+5.4%
ネットワークカメラ他	+25.7%	+13.1%	+11.3%
合計	+8.1%	+6.2%	+7.8%

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
台数(万台)	62	275	280
伸び率	-16%	-5%	-3%

20

<ネットワークカメラ>

ネットワークカメラ市場は、AIを活用した映像解析技術の進化により、従来のセキュリティ用途にとどまらず、マーケティングサポートや生産現場の効率化支援など、映像データを活用した幅広い用途へと需要が広がっており、引き続き力強い成長が続くと見込んでいます。

第3四半期は、独自開発のSoC（System on Chip）を搭載し、サイバーセキュリティやAI分析に強みを持つ豊富な製品ラインアップを生かして、データセンターや小売向けなど各分野で売上を大きく伸ばした結果、好調だった上期をさらに上回る3割以上の増収を達成することができました。

第4四半期も足元の力強い市場成長が続くと想定されることから、見通しを再度引き上げて、年間で20%成長を目指します。世界各地に構築した強固な販売パートナー網に加え、多様なニーズに応える幅広い製品ラインアップとソフトウェアを組み合わせたソリューションを強みに、市場以上の成長を実現していきます。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
光学機器	501	619	-19.1%	2,540	2,564	-0.9%	2,622	-82
産業機器	236	235	+0.5%	846	1,047	-19.2%	915	-69
売上高計	737	854	-13.7%	3,386	3,611	-6.2%	3,537	-151
営業利益	127	139	-9.2%	586	625	-6.3%	603	-17
%	17.2%	16.3%		17.3%	17.3%		17.0%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
光学機器	-20.0%	-1.5%	+1.8%
産業機器	-1.2%	-20.0%	-13.3%
合計	-14.9%	-6.9%	-2.6%

■露光装置台数

		2026年		
		3Q	年間見通し	前回見通し
半導体	KrF	14	66	70
	i線	28	155	157
		42	221	227
FPD		2	20	20

21

<光学機器>半導体製造装置

半導体露光装置市場は、AIインフラ需要の拡大を背景に、メモリーおよびロジック向け投資が成長を牽引しています。2027年もAI関連投資は継続し、先端パッケージ分野での後工程向け装置への投資拡大も期待されることから、市場は引き続き成長すると見えています。

第3四半期の販売台数42台は引き続き前年を下回っているものの、i線と比べて単価の高いKrF装置が、AI関連需要の拡大によりメモリー向けを中心に大きく伸びたことで、売上は増収となりました。旺盛な需要に対応するための増産は計画通り進捗しており、第4四半期の販売台数は87台へ大幅に増加する予定であり、年間でも増収となる見通しです。

次世代の半導体製造装置として導入を進めるナノインプリントは、顧客が使用するウエハーを用いたプロセス検証が順調に進んでいます。6月に追加で出荷した装置の立ち上げも完了し、量産に向けた生産性向上の検討にも取り組んでいます。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2026年 実績	2025年 実績	対前年	2026年 最新見通し	2025年 実績	対前年	2026年 前回見通し	対前回
光学機器	501	619	-19.1%	2,540	2,564	-0.9%	2,622	-82
産業機器	236	235	+0.5%	846	1,047	-19.2%	915	-69
売上高計	737	854	-13.7%	3,386	3,611	-6.2%	3,537	-151
営業利益	127	139	-9.2%	586	625	-6.3%	603	-17
%	17.2%	16.3%		17.3%	17.3%		17.0%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2026年		
	3Q	年間見通し	前回見通し
光学機器	-20.0%	-1.5%	+1.8%
産業機器	-1.2%	-20.0%	-13.3%
合計	-14.9%	-6.9%	-2.6%

■露光装置台数

		2026年		
		3Q	年間見通し	前回見通し
半導体	KrF	14	66	70
	i線	28	155	157
		42	221	227
FPD		2	20	20

21

<光学機器> FPD（フラットパネル ディスプレイ）露光装置

ディスプレイ搭載デバイスは、米国関税やメモリー価格高騰の影響により価格が上昇した結果、需要が大幅に低下し、パネルメーカーが投資を延期したためFPD露光装置の市場も一時的に縮小しています。

当社の第3四半期の販売台数は2台、年間でも20台と前年を下回りますが、ITパネル向けの新規投資や、高機能化や薄型化が進むスマートフォン向けに足元ではパネルメーカーによる投資再開の動きが見られ商談数も増えていることから、2027年以降は販売台数の増加を見込んでいます。

<産業機器>

有機ELディスプレイ製造装置は、パネルメーカーによる投資先送りの影響を受け減収を見込んでいますが、半導体向け成膜装置については顧客都合および部材逼迫の影響を受け売上は昨年を下回るものの、旺盛なAI需要を背景にHBMなどのメモリー向けを中心に受注は大きく増加しており、2027年以降は売上成長を見込んでいます。